

Title	日本語と韓国語の受身表現 : その対照研究
Author(s)	鄭, 秀賢
Citation	語文. 1980, 37, p. 12-21
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68666
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

日本語と韓国語の受身表現

— その対照研究 —

鄭 秀 賢

一、序

日本語と韓国語は、対照言語学的な側面から見て、非常に類似点の多い二つの言語として知られている。反面、音韻・文法・語彙など、あらゆる方面で、相当な相違をも見せている。両言語における親族関係も、未だに十分には分からないようである。

さて、本稿では、現代日本語と現代韓国語の受身表現において、それぞれの特徴が、どういうふうに使われているか、以下のいくつかの視点にしばり、共時的研究として、対照してみたいと思う。

▽相 (aspect) との関係において

▽使役表現との関係において

▽主語との関係において

二、文法形式の限定

日本語における、受身表現の文法的な形式は、接尾性助動詞といわれる「れる・られる」だけに限定して考えることが出来るだら

う。これに対して、韓国語の受身表現(被動形)を作る方法は、次のように多様である。

1、接尾辞「ㅇ・히・리・기」[o・hi・li・gi]の添加。

例、보다[boda] (見ル) → 보이다[boida] (見ラレル)

먹다[mokda] (食ヘル) → 먹히다[mokhida] (食ハラレル)

삼다[samda] (カム) → 삼리다[salida] (カイルル)

씻다[sitida] (洗ウ) → 씻기다[sitida] (洗ワレル)

2、被動助動詞「지다・이다」[ida・ida]を用いる。

3、接尾辞と被動助動詞とを用いた二重受身用法(1+2)。

例、보다 → 보이지다[bojoida] (見ラレル)

먹다 → 먹이지다[mokhjoida] (食ハラレル)

뿌다 → 뿌러지다 [mul'jocida] (カマレル)

씻다 → 씻겨다 [s'ikjocida] (洗ワレル)

4. 受身の意味を持つ動詞を補助動詞とする用法。

例, 받다 [batda] (受ケル)

→ 청찬받다 [c'ingc'anbatda] (ホメラレル)

당하다 [danghada] (苦ム)

→ 창피당하다 [c'angpidanghada] (恥ラレル)

맞다 [matda] (苦ム)

→ 도둑맞다 [dodukmatda] (盗ワレル)

보다 [boda] (見ム)

→ 유보다 [yuboda] (恥ジラレル)

보다 [bokda] (食ベル)

→ 유먹다 [yumeokda] (悪ク評判サレル)

말다 [malda] (聞ク)

→ 웃음말다 [u'neungmalda] (叱ラレル)

のようであるが、3は、可能の意味としても用いられるし、4の補助動詞の場合は、本動詞として用いられても、受身の意味にとられる。例えば、「청찬받다 [c'ingc'anbatda] (ホメラレル)は、청찬중받다 [c'ingc'angn'batda] (ホメコトハヲ受ケル)」のようない方も用いられているからである。

それゆえ、韓国語の受身表現は、1の接尾辞によるものだけに限定する説と、他の形式まで含めて考える説とに分かれているように

あるが、本稿では、後者の立場に立って、広く考えてみたいと思う。なお、日本語の「れる・られる」は、受身の外に、尊敬・自発・可能の意味としての用法も存在するのに対して、使役表現の文法形式には、全く別の形式である「せる・させる」が存在する。

しかし、韓国語の受身(被動)の接尾辞「로・르・세・기」は、使役(使動)の接尾辞としても用いられているので、注目すべきことと思われる。この接尾辞「로・르・세・기」が、受身として用いられているのか、使役として用いられているのかの判断は、文脈関係からなされるのである。

三、全般的な傾向

—— 迷惑の受身を通じて ——

日本語は、ごく一部の例外(慣用句における制限など)を除くと一般的に、ほとんどの動詞が受身形を持つと言えよう。これに対して、韓国語は、原則的に他動詞だけに受身形が見られるばかりでなく、受身表現自体が少ないようで、全般的に受身表現より直接的な能動態の方が、もっと好まれているのではなからうかと思われる。

(1) ① 雨に降られてくろうをした。

② 今、ここに彼に來られると困る。

③ 彼女は、子供に先に死なれて、氣落ちしている。

④ 一晩中、赤ん坊に泣かれて、ちっともねむれなかった。

⑤ 君にそこに居られては、まずい。

(2) ① 空地に家を立てられて、子供たちは、遊び場を失った。

(自動詞／他動詞) △あく／あける △かかる／かける △とどく／とどける △つかまる／つかまえる △加わる／加える

等の類であるが、これらのような対立が、韓国語にはあまり見られないように、右例は、

▷열다[*jeolda*] (他) (アケル)

▷걸다[*geolda*] (他) (カケル)

▷잡다[*jada*] (自) (トドク)

▷붙잡다[*butjapda*] (他) (ツカマエル)

▷모하다[*mojada*] (他) (加エル)

のように、かた一方しかないことになる。

したがって、他動詞は存在しても、それに対立できる自動詞は存在しない場合、その他動詞の受身形が、受身の意味以外に、自動詞としての意味にも用いられることになるようである。「あく・あける」の場合を、例に出してみる。

① (○) 窓があいている。
自・受テイル

② (○) 窓があけてある。
他テアル

③ (○) △窓があけられている。
他・受テイル

④ (×) 窓があかれている。
自・受テイル

(i) (○) 창문이 열려 있다[*ŋamuni jolljo itda*]

他・受+テイル (窓があけられている)

(ii) (○) 창문이 열려져 있다[*ŋamuni jolljo itda*]

他・二重受身+テイル ("

(iii) (×) 창문이 열어 있다[*ŋamuni jolo itda*]

他+テイル (窓があけてある)

上例から見られるように、日本語では自動詞と他動詞が対立する場合に、自動詞の方は受身形が成立しないように思われる(例④)。それとともに、この場合の他動詞の方も、人為的な意味を強調する時以外は、あまり用いられず(例③)、おもに、

自動詞+テイル(例①)

他動詞+テイル(例②)

を用いる傾向があるように見える。

すなわち、例①の「あいている」は、「自然にそうなっている状態」を示し、例②③は、「人為的行為を前提としての状態」を意味していると言えよう。しかし、例③の「あけられている」の方が、普通の会話であまり使われない理由として、例②の「あけてある」の存在をあげることが可能であろう。両方ともほとんど同じ意味の役を果たすので、普通の会話では、より簡単で便利な言い方の「あテイル」形のほうを使う、わざわざ受身の「あレテイル」形を用いる必要が少くない、ということではなからうかと思われる。

一方、韓国語においては、他動詞「あける」に相当する動詞

「있다」[jɔɪda] は存在するが、自動詞「あく」に相当する動詞は存在しない。それで、「있다」[jɔɪda] の受身形である「있으나」[jɔɪɔnda]もあるが、二重受身である「있으나」[jɔɪjɔnda]を用いることによつて、日本語の「あく」動詞の後まをしなければならぬことになる。

それ、韓国語には、存在詞として「있다」[jɔɪda] はあるが、「일」と「풀」との区別をしないので「~테일」と「~테풀」との区別も出来ないわけである。したがつて、「あづけている」も「あづてある」も「있다 있다」[jɔɪjɔ itda] または「있으나 있다」[jɔɪjɔɔnda itda]のついで「있다」[jɔɪda] だけを用いるし、受身文になつてゐるのである。

今までのことを形態の面と意味の面とで図にしてみると、次のようである。

▽形態面

	日本語	韓国語
自動詞	あく	×
他動詞	あける	열다[jɔɪda]
自動詞の受身	×	×
他動詞の身受	あけられる	열리다[jɔɪlida] 열리게다[jɔɪlɔjɔnda]

▽意味面

	日本語	韓国語
自動の意	あく	열리다[jɔɪlida] 열리게다[jɔɪlɔjɔnda]
他動の意	あける	열다[jɔɪda]
受身の意	あけられる	열리다[jɔɪlida] 열리게다[jɔɪlɔjɔnda]

「自動と受身」「他動と使役」が、意味的な面でお互いに相通しているため、区別が曖昧であるということを、ここでも見ることが出来ると言えよう。

特に、韓国語において能動態動詞とそれに対応している受身態動詞とは一対一の関係ではないことがわかる。受身態動詞が表わしている意味を、能動態動詞の意味から引き出せない部分、つまり、受身だけが持つ特異な意味もあり、能動態動詞だけが持つ特別な意味もあるということである。

次に「かかる・かける」の例を考えてみよう。

- ① (○) 壁に絵がかかっている。
 - ② (○) 壁に絵がかけてある。
 - ③ (○) 壁に絵がかけられている。
 - ④ (×) 壁に絵がかかっている。
- (i) (○) 벽에 그림이 걸려 있다 [bɔɪke kɔɪlɔjɔ kɔɪlɔ itda]

(壁に絵がかかっている)

(四) ○) 벽에 그림이 걸려져 있다 [bjoke kilimi kollijojo ida]

(壁に絵がかけてある)

(四) ×) 벽이 그림이 걸어 있다 [bjoke kilimi kolo ida]

(壁に絵がかけてある)

「かかる・かける」の場合も「あく・あける」の場合と同一であ
って、韓国語では「かける」に相当する他動詞「걸다」[kolda]
は存在するが、「かかる」に相当する自動詞は存在しない。したが
って、他動詞「걸다」[kolda]の受身形である「걸리다」[kollida]
あるいは「걸려지다」[kollijojida]を用いることとなるのである。

「가다」 「걸리다」 [kollida] と 「걸려지다」 [kollijojida]

の場合は、用法上の違いが見られる。「걸려지다」は「걸다」の二
重受身であり、「걸리다」は接尾辞「-리」の付いた受身形であるが、
この「걸다」は「걸리다」の受身形動詞としての意味以外に、独特
な使い方があるので注目すべきだろう。例えば、次のようである。

▷ 전수가 이 책을 읽다의 일주일 걸렸다 [tʰolsuka i ʔeŋki
ilunde nŋuɪ kollijojida]

(チョルスがこの本を読むのに一週間かかった)

▷ 전수가 갑자기 걸렸다 [tʰolsunin kamie kollijojida]

(チョルスは風邪をひいた)

▷ 용돈을 부수어 보낸 것이 마음에 걸린다 [jondoni motʰu
bonenkosi maime kollinda]

(おこづかいをあげないまま行かせたのが気にかかる)

もう一つ、受身形と相との関係において、考えておきたいことは、

客観的な言い方を示している類の語が多いことである。新聞・ラジ
オ・テレビ等のニュースのような報道文とか、論文のように客観性
が強く要求されている文章によく用いられている言葉がある。

▷ 云われている ▷ 行なわれている ▷ 囲まれている

▷ 恵まれている ▷ 考えられている ▷ 期待されている

等の類であるが、これらは韓国語でも同じ現象が見られる。このよ
うな現象は、両言語とも動作の行為者が明らかでないか、または、
それに関心がない場合、単なる状況説明として受身形と「テイル」
とが結びついて用いられやすいことを語るように思われる。

五、使役表現との関係において

韓国語においては、受身の接尾辞と使役の接尾辞が同じであるこ
とは前にも言及したとおりである。これの外に使役表現には、接
尾辞「-히」とか、補助動詞「[보이다] [boinda]」あるいは、使役
の意味を表わす「[시키다] [sikida]」等もあるが、ともかく、受身
と使役の接尾辞が重なっているということは、事物の受身的な事が
らと使役的な事がらとがお互いに表裏として存在していることを示
唆しているのであろう。

日本語における受身表現と使役表現との関係を、次のようないく
つかの表現形式に分けて、意味の差をくらべてみることは興味深い
ことである。

▷ ~れる・られる

▷ ~せられる・させられる

▽させてもらう

▽させていただく

受身との関係を考えているのであるから、「～させてやる・～させてあげる」にはここでは言及しない。右の形式に例を当ててみよう。

(1) 弟にお菓子を食べられた。(食べられてしまった)

(2) 友人にむりやり酒を飲まれた。(飲ませられた)

(3) お正月、ひさしぶりに里帰りして母さんにおいしいものを食べさせてもらった。

(4) かつてながら本日は休ませていただきます。

これらは、話し手の気持ちがよく表われている表現形式であろう。(1)は受身文として、(2)は使役の受身文として、(1)(2)ともに迷惑・被害の気持を表わしているが、(1)における「食べる」行為の主体は弟であるのに対して、(2)における「飲む」行為の主体は話し手自身であることが違うところであろう。また(3)は使役形に補助動詞「モラウ」が付いた文であって、迷惑の気持はなくなり、感謝の意を表わしているし、行為の主体は話し手である。(4)の「店を休む」行為は話し手自身であって、単なる「休む」というところを「休ませていただく」というふうに、くるとまわった表現を用いているのは面白い。

右の例(1)(2)(3)(4)ともに、個々の特性にとんだ表現であるが、このような表現形式は、韓国語には存在していない。ことに、(2)のような「使役形の受身」は話し手のこまかいニュアンスが短く簡単に表現できると思われる。「いやであまり心が進まないことを、しかたなくさせられるままに、そうするしかなかった」という気持ちを一

言で言えるからである。

韓国語には、このような表現形式がないため、(1)(2)(3)(4)四つとも能動態の文を使い、直接的に表現する方が自然な感じを与えられるのであって、比較的のものをはっきり言う傾向が見られると思われる。しかし、(1)の場合は「～テシマウ」に相当する「먹히다」

「hebidita」の形式がよく使われるようである。

反面、日本語とは逆に、韓国語では「受身形の使役」に相当するような表現が不自然に感じられない場合がある。次の例文は、受身の使役を用いた文としておかしくない、自然に感じとれる文と言えるだろう。

① 큰 고기가 잘히게 하소서 / [kʰin kokika ʧapike hasoso]

① 큰 고기가 잘히게 하소서 / [kʰin kokika ʧapjotike hasoso]
(大きな魚がつかれるようにしてー)

② 죄가 씻겨지게 하라 [ʧŏka sʰikjotike hada]

③ 죄가 평히게 하라 [ʧŏ apidapike hada]

(恥られるようにする)

①①は「大きな魚がつかれるようにしてください」という意味で、

①は受身の接尾辞に②は二重受身形に、使役を表わす「하」

「he hada」(させる)が付いている。日本語に仮に当ててみることにすれば「つかれさせる」となる。②は「洗われさせる」③は

「恥られさせる」のようになるので、これらを一般化するにはまだ問題があるが、日本語の「させられる」の逆の形である受身の使役表現が、韓国語に存在するということは何を意味するのか、興味深

いことである。

使役と受身とは、うらおもての関係にあるようで、結局同じことを意味することになる。次の例文から考えてみると、

▽この手紙が彼に読まれる

▽この手紙を彼に読ませる

いずれも、いわゆる深層の意味が、「彼が手紙を読む」ことである点で同じである。したがって話し手が何に重点をおいて表現しようとしているかによる表現の違いにすぎないと言えるだろう。受身の例の場合は「手紙」に使役の例の場合は、手紙を読むようにしつけたものがあることに、単なる他動詞の場合は動作主体に、それぞれ重点をおいているということの違いであろう。

これは聞き手にニュアンスの差として受けとられることになるが、どの表現を用いるかはその時その時によって異なるものであって、表現の目的によって使い分けられるものである。また、次のような例から考えられることも注意しておきたいと思う。

(1) 雨が遠足をのびした。

(2) 雨で遠足がのびた。

(3) 雨で遠足がのびされた。

右の三つの中、一般にもっとも普通の表現は(2)であろう。(3)も使わないではないようだが、(1)は欧文翻訳調で、普通には使われないうと言えらるだろう。これは表現の違いによる自然さ・不自然さと文法とは別に考えた方がよいということの一例であろう。

六、主語との関係において

(1) ①彼がこんな姿を見たらはずかしい。

②彼にこんな姿を見られたらはずかしい。

③こんな姿が彼に見られたらはずかしい。

(1) 그가 이런 모습일 보이면 부끄럽다
[keke ilon mostibi boimjon buk'yl'obda.]

(2) 나에게 이런 모습을 보이면 부끄럽다
[keke ilon mostibi boimjon buk'yl'obda.]

(3) 이런 모습이 나에게 보이면 부끄럽다
[ilon mostibi keke boj'ojimjon buk'yl'obda.]

(2) ①彼女がその事実を(ダレカ)知らせるとこまる。

②彼女にその事実を知らせられると知らされると、こまる。

③彼女にその事実が(ダレカカラ)知らせられると知らせられると、こまる。

(1) 그녀가 그 사실을 알면 반만하다

[kinjoke ki sasih'i alimjon konlanhada.]

(2) 그녀에게 그 사실을 알면 반만하다

[kinjoke ki sasih'i alimjon konlanhada.]

(3) 그녀에게 그 사실이 알면 반만하다

[kinjoke ki sasih'i alio'ojimjon konlanhada.]

右の例(1)(2)から考えてみると、日本語で普通使われる受身表現とは(2)であって、(3)はあまり用いられていないようである。また、

例(1)の②と(2)の②における助詞「に」には違いがある。(2)の②は、「だれかによって彼女に知られる」というふうに方向を意味する場合と、「彼女が」または「彼女から」だれかに知らせるといいう意にもなりうるのとことである。つまり、処格助詞「に」が動作主を表わすことになるのである。

しかし、これに対応する韓国語の場合は、例(1)と(2)で見られるように、処格助詞「에」[eke] は方向を示し、行為者を示してはいない。目的格「을」は使役態と、主格「가」は受身態との結合が強し、使い分けされているようである。

なお、日本語の助詞「を」を取る受身文においては「被害・損害・めいわく」などを被っていることを表わす場合がほとんどであるが、利益を受けていることを表わすことがないとは言えない。例えば、

▽本田さんは先生に娘をほめられた。

のように動詞本来の意味から、めいわくの気持ちになりにくいような場合があると見えるだろう。

助詞「は」「が」と受身文との関係においても主語の問題が出てくる。能動態を受身態に、受身態を能動態になおすとき、助詞「は」と「が」の変化がおこるようである。

(1)ほくは大きな犬にかまれた。

(2)大きな犬がほくをかんだ。

(3)私は見知らぬ人に話しかけられた。

(4)見知らぬ人が私に話しかけた。

右の例のそれぞれの文の主語と見られる語に付いている助詞に注意してみると、受身文には「は」が、能動文には「が」が使われて

いる。受身文(1)と(3)を助詞「は」のかわりに「が」にしてみたら、きわめて不自然になるし、能動文の(2)と(4)を助詞「が」のかわりに「は」としてみたら、抽象的な感じがして、現実感がなくなるようになってしまう。このような使いわけは「は」と「が」の使いわけのむずかしさをのぞかせているのであるが、これらの文を韓国語におきかえてみると、助詞においてはまったく同じ現象がおこる。日本語の「は」に相当するのは「에」[e]、「가」[ga]、가」に相当するのは「은」[un]、「이」[i]、이」があるが、その使いわけは、受身文については同じようである。

くりかえして言うが、日本語における受身表現とは、単なる能動文の入れ替えではなく、話し手の気持の表現だと思われる。

▽大工によって家が建てられた。

▽本が買われる。

▽料理が作られる。

というような表現は普通あまりしない。また、

▽演奏がはじめられた。

▽親鳥によって卵が生まれた。

というよりも、

▽演奏がはじめった。

▽親鳥が卵を生んだ。

と言うほうが普通のように、「だれかによって」が含まれているような表現はあまり好まれない。すなわち、「受身」とは日本人にとって、自分の意志が何も介入していないのに、ある動作が成立することを意味するようである。

